

TOKARA NEWS



TOKARAは もうすぐ15周年...まだまだ若いですよっ!!



東座歌舞伎場 - 公演前



和太鼓情熱コース

2019年のTOKARA結成15周年に向け世界ツアーの計画が着々と進んでおります。和太鼓のグループにとっては15周年はまだまだ若い分類ですが、15年という歳月はあっという間で30年ほど経つのではないかと感じてしまうぐらいです。それは間違いなくこの15年が充実した時間であり、その中で経験した様々な出来事や新しい出逢いが全て今のTOKARAの肥やしとなっていると実感します。これまでお逢い出来た全ての人々と出来事が無ければ今私達はこの場に立っていられなかったと思うと、この場で申し上げられる十分な感謝の言葉が見つかりません。これからも1日1日弛まず前進あるのみです。これまでTOKARAを応援し支えてくださった皆さまに感謝申し上げます。そしてこれからもどうかよろしくお願い申し上げます。

最近は何をしていますか??

さて、最近のTOKARAはと言いますと、先日2018年の日本最終公演「剛毅果敢」三重県菰野町公演が終わりました。其々の会場にお越しくくださった皆さま、お手伝いくださった皆さま、本当にありがとうございました。

そして9月からヨーロッパツアーに出かけます。また日本の皆さまにお会いできるのは12月...

その前に、この「剛毅果敢」のツアーのご報告をさせていただきます。

2018年2月から「剛毅果敢」のタイトルで各地公演をさせていただきました。これにはアート・リー芸歴25周年記念ツアーのサブタイトルがついております。

「剛毅果敢」に寄せて アート・リー

私にとって2018年はとても重要な1年です。荒波の太鼓海を航海する中で芸歴25周年を迎えられた事には特別な思いです。陸路の旅に例えるなら、起伏の激しい道のりだったと言えるかもしれません。(なだらかな丘や魚の泳ぐ池というより切り立った山と深い海溝とでも言いましょうか。)しかしどんな困難な時でもそこを踏みしめ踏み固め前に進む必要があると感じました。そして今年タイトルにえらんだ「剛毅果敢」は、私の思いを表すのに正に適切な言葉だと直感しました

「剛毅果敢」とは、意思を強く持ち物事にくじけず、思い切って行動をおこすこと、と有ります。

2月から8月まで続いた「剛毅果敢」ツアーに合わせ、新しく9曲を作りました。公演に仕上げるまでは、まるで新しいチームを作り上げるような作業でした。

「剛毅果敢」では飯田公演から始まり様々な会場におじゃまさせていただきました。久しぶりに名古屋での公演も実現しました。沢山の方々にご協力頂きました。岐阜では17世紀から有る歌舞伎小屋「東座」の美しさも心に残っています。地元長野県飯田市でTOKARAが主催した「幸い下伊那和太鼓フェスティバル」、飛騨高山での演奏「日本の太鼓頂上響演」。飯田市千代で保育園の夏祭り。子供たちとオリジナル曲“千代豊稔囃子”の演奏もありました。

9月からはヨーロッパドイツを拠点に、オランダ、ベルギー、フランス、スイスなどワークショップやコンサートにおじゃまする予定です。その様子はまた帰国後ご報告させていただきます。お楽しみに。

これからの演奏活動

9月-12月

海ヨーロッパツアー

ドイツ、ベルギー、フランス、スイス

----- 2019年 -----

2月9日 (土)

遙TOKARA遙 15周年記念日本ツアー

海の風景

飯田市中央公民館

長野県飯田市

5月10,11日

カナダオーケストラと共に

「モノプリズム」 (石井眞木)

「管弦楽のためのラプソディ」 (外山

雄三)

カナダ

6月29日 (土) 予定

幸い下伊那和太鼓フェスティバル

飯田市中央公民館

長野県飯田市

7月6日 (土) 予定

遙TOKARA遙 15周年記念日本ツアー

可児市芸術創造センター

岐阜県可児市



UPCOMING!!

2019年引き続き日本でのツアー開催予定です。また新しい挑戦として「海の風景」と題したプロジェクトを予定しています。

海の風景



見渡す限りの大海原の前に立つ時、何処からがこっちの国で何処からがあっちの国で...なんて、区切る事が出来るのでしょうか？ この水は私のでこの水はあなたのもの...

だなんて、このちっぽけな私たちに決める事が出来るのでしょうか？ いや、決める必要が有るのでしょうか？

見渡す限りの大海原に立つ時、そこに区切られるべきものは何もない気がします。

自然はもっととてもシンプルなはずなのに、複雑になってしまうのには原因がある気がしてなりません。もともと区切る必要がないものや、区切られべきではないものがこの世にはたくさん有るように思います。

幼い子供たちの心は純粹で海のように雄大で区切られる事なく広がっています。そして彼らの感性は敏感で順応です。

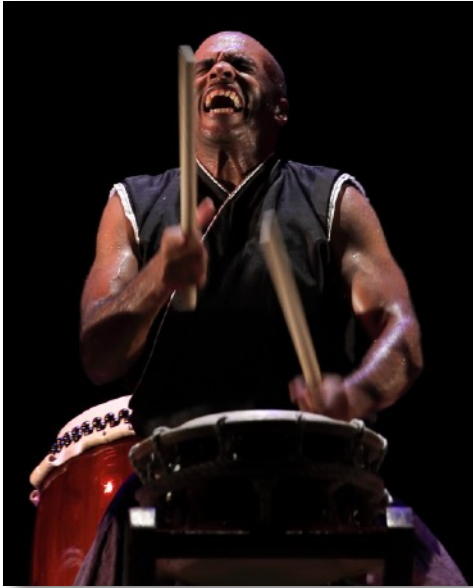
以前カナダツアー中、忘れられない一言に出会った特別な日が有りました。ここに紹介させていただきます。



“From Your Heart” ~フロム ユア ハート(心から)~

その日、学校公演の中で子供たちの体験コーナーをしていた時でした。まずはバチの握り方の説明。「ギュッととは握らないんですよ。優しく握手する様に握ります。そうするとい音が出せます。それから...大きな良い強い音を出すには、もうひとつ大切な事が有ります。さあ、良い音は何処から来るのでしょうか...」と、ここまで説明した私の耳に飛び込ん

できた言葉が有りました。それは...「From your heart (あなたの心から)」と言う一言。一瞬耳を疑ってしまいそうになり、つい声のした先を見ました。最前列に座っていた男の子が私を見上げていました。この時私が説明しようとしたのは、「しっかり足を開いて、腰を落として...」とい



う"立ち方"についてでしたが、この5~6歳の男の子の発した一言...「心で打つこと」は、バチの握り方より、立ち方より大切な事であると同時に、本当に"良い音"を出す為に何よりも必要な事だと思います。本当に本当に、その通りなのです！それを小さな子が口に出して発してくれた事が嬉しくも有り、驚きでも有りました。一瞬「From your heart」の一言が私の身体の中をこだましました。

太鼓の音は心の音だと思います。この日初めて太鼓を観たこの男の子が感じてくれた事が嬉しくて、「From your heart (あなたの心から)」と言ってくれた事が嬉しくて、一瞬息も止めてしまう程でした。彼の一言は、その日1日私たちを本当に幸せにしてくれました。そればかりか今でもあの一瞬の喜びを忘れる事が出来ません。きっとこれからもずっと...

私たちは色々な公演の中でも学校公演が大好きです。日本に拠点を置きながら、多国籍のメンバーから成るTOKARAは、特殊なグループと言えるかもしれません。そんな私たちだからこそ、和太鼓は日本だけ日本人だけに留まらない美しい音楽芸術であり、世界にそれを広めること、和太鼓を通して海外と日本を繋げる架け橋になることが自分たちの使命だと感じています。15年前にTOKARAをはじめた頃から、学校公演は私たちにとって特別な経験でした。子供たちは、和太鼓のグループでありながら、日本人だけではなく多国籍のメンバーで構成された私たちの演奏を体感し、国籍や性別、年齢外見などに囚われず、自分の信じた道、決めた道を貫き、作り上げて来たステージを目を輝かせて観ていてくれます。

人生にとって、国籍性別外見が大切なのでは無く、プライドを捨て、謙虚に、がむしゃらなほど夢中に、懸命に、自身の道を貫き通し、鍛錬を積み上げる事が大切であると思います。子供たちの反応や感想は大人よりずっと正直で、柔軟で、私たちのこのメッセージをよく理解してくれる事にいつも感心させられます。この正直で純粋な子供たちとの関わりが私たちは大好きです。

これは改めて自分たちの音楽を世界中のもっと多くの子供たちに届けようと決意を固めた出来事でした。

「海の風景」プロジェクトでは地元飯田下伊那の子供たちを公演に無料招待致します。子供たち同伴の大人の皆さまもご家族で、もちろん一般のお客さまにも大勢ご来場頂ければ幸いです。詳細は随時ホームページ等にも載せてまいります。どうぞお楽しみに。

[ツアー写真集](#)

[公式ウェブ](#)

[インスタグラム](#)

[フェイスブック](#)